令和5年 日出町議会 12月定例会

令 和 5 年

視 察 研 修 報 告 書

日出町議会 福祉文教常任委員会

日出町議会 福祉文教常任委員会

研修報告書

１ 期　間　　令和５年１１月１日

２ 視 察 地　臼杵市学校給食センター/臼杵市土づくりセンター

３ 参 加 者　福祉文教常任委員会

委 員 長　河 野 美 華

副委員長　衛 藤 清 隆

委　　員　熊 谷 健 作

委　　員　金 元 正 生

委　　員　上 野　満

委　　員　安 部 徹 也

委　　員　多 田 利 浩

随　　行　山 口 佳 子（議会事務局 局長）

河 野 裕 治（議会事務局 次長）

福祉文教常任委員会行政視察研修報告書

【日時】2023 年 11 月 1 日

【場所】臼杵市学校給食センター

臼杵市土づくりセンター

■視察の目的

ユネスコ食文化創造都市に登録されている臼杵市の地元有機農産物を使った給食とほんまもん農産物を栽培するのに欠かせない土づくりを学ぶ

○臼杵市独自の認証「ほんまもん農産物」

うすき夢堆肥などの完熟堆肥で土作りを行い、化学肥料と化学合成農薬の使用を避け栽培した農産物をほんまもん野菜として市長が認証している。JAS登録認証機関が協力し農産物生産圃場の認証審査を行っている。

○給食畑の野菜

JAS規格等ではないが生産者が子どもや孫に食べさせる気持ちで作ったもの

○土作りセンターの「うすき夢堆肥」

廃棄に困って製造されてきた従来の畜産糞尿中心の堆肥ではなく、草木類を主原料に熟成させた完熟堆肥

■視察を終えて

臼杵市では地元で取れた野菜、特に臼杵市独自の制度で認証しているほんまもん野菜や給食畑の野菜を給食に使用することを徹底しており、給食センターの運営指針の中に使用する農産物の優先順を定めている。1，ほんまもん野菜、2，給食畑の野菜 3，一般流通野菜（優先順位⇒臼杵市産、県内産、国内産、外国産）としており、給食に使用している野菜の内 4 分の 1 がほんまもん野菜と給食畑の野菜となっている。しかし有機野菜は単価が高く市場価格の 1.5 倍で購入しているため、その 5 割増分は農林振興課が予算化した補助金で後に給食センターに返してくれるようになっており、おかげで給食を据え置き価格で提供出来ているとのこと。昨年度農林振興課の負担実績は 230 万円となっている。有機

野菜を使うことで 1 番の課題は野菜が不揃いであるため、限られた時間で調理せねばならず大変であるということ、またそのために人員を多く配置しているということであった。
次に土作りセンターでは、農業に欠かすことの出来ない土から生まれる農作物がおいしく元気であるためには土壌がミネラル豊富で健康でなければならないという考え方の基に自然に近い完全堆肥を人工的に製造し、安全安心で健全な農業振興を図るよう努めていた。このうすき夢堆肥は年間 1600t～1800t製造しており、価格は 1tあたり 5000 円で臼杵市内の圃場に散布する方限定の販売とのこと。適正価格は 1t1 万 5 千円～2 万円だが、後に税で戻ってくるという考え方で販売を行っているという。現在有機農家は 54 戸であるが、新規就農希望者が大変多く、担当の有機農業推進室には 3 名の職員を配置しているとのことであった。有機農業者を増やしていくためには当然安定した収入が得られるようになることが必要であり、生販分離が大事であるため、市では百貨店等に営業する人材を募集中とのことであった。また、給食で使用する野菜作りに関しても職員が給食センターと生産者の間に入っていたが、それとは別に普及員を雇って有機農家を巡回するようにしているなど、生産者に全て任せるのではなくしっかりとサポートをしている印象であった。
最後に、地元有機野菜を使った給食も、うすき夢堆肥を製造している土作りセンターも儲かる事業ではなく市費を投入して継続している事業であったが、しかしそうまでし続ける理由があった。それは市民にほんまもん農産物の味を知ってもらい、いつでもほんまもん農産物を食べることができ、いつまでも市民が健康でいられるための有機の里づくりに他ならない。「材料費を市が多少負担してでも子どもたちがおいしく安心な給食を食べて健康に育ってゆけば郷土愛も育まれ、いずれはふるさとに帰ってくるかもしれない、そうなれば材料の市費負担額は高い金額ではない」と言われていたのが印象的だった。日出と臼杵では有機農業に対する価値観や環境が現状ではかなり違うが、参考に出来る部分はあるので今後の議員活動に活かしていきたい。